

夏休みにHPVワクチンを受けて

未来のわたしを、 今守ろう！

知っていますか？
若い人の子宮頸がんが増えています！

知らなかった、で
後悔しないために。

日本では、毎年約**1.1万人**の女性が
子宮頸^{けい}がんにかかり、
約**2,900人**が亡くなっています

2クラスに1人くらい*が
子宮頸がんにかかる確率です。

*1クラス35人の女子クラスの場合

でも…



HPVワクチンで、
子宮頸がんの原因となる
ウイルス感染を
80～90%予防
することができます！

小学6年～高校1年の女子は
公費で接種できます！**無料**

※接種の人は、夏休みに親子で考えてみよう！

詳しくは裏面もご覧ください

接種スケジュール

シルガード®9

1回目の接種を
15歳になるまでに
受ける場合



1回目の接種を
15歳になってから
受ける場合



※1：1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。

※2、3：2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)

！ 高校1年で接種を完了するには、
9月までの1回目接種がおすすめ！

！ 15歳までに接種を開始すれば、
6か月後の2回目で、接種完了！！

安心して接種できる体制が整っています

ワクチン接種後に体調の変化や気になる症状が
現れたら、接種医に相談してください。

必要があれば、必要な協力医療機関である愛媛
大学附属病院につないでくれます。



愛媛県医師会のホームページでは、HPVワクチンに
関する記事や動画をご覧ください。

愛媛県医師会 HPV



愛媛県医師会・愛媛県小児科医会・愛媛県産婦人科医会

ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症 について

ヒトパピローマウイルス (HPV) は、性行為の経験がある女性であれば、**50%以上が生涯で一度は感染するとされています** (HPVに感染しても全員が子宮頸がんへ進行するわけではありません)。その他、肛門がん、膣がんなどのがんや、尖圭コンジローマ等、多くの病気の発生にかかわっています。



ワクチンの効果について

HPVの中には子宮頸がんをおこしやすい型があります。
HPVワクチン (シルガード®9) は、子宮頸がんの**原因の80~90%を占める** HPV16型、18型、31型、33型、45型、52型、58型の**感染を防ぎます**。

ワクチンの安全性について

ワクチン接種後に、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。

重い副反応はまれとされ、**ワクチンの安全性は乳幼児の頃に受けた定期接種と同程度と考えられています**。

男子へのHPVワクチン接種について

定期接種ではないので、自費で接種する必要がありますが、ワクチンを接種することにより、**肛門がん、尖圭コンジローマ**など、HPVが原因と考えられている病気の予防が期待できます。また、男子がワクチンで感染を予防することで、性的接触による**HPV感染から女性を守り**、子宮頸がんの予防にもつながる可能性があります。



子宮頸がんで苦しまないためにできることは？

ポイント

1

HPVワクチンで
HPVの感染を予防



ポイント

2

子宮頸がん検診で
がんを早く見つけて治療



ワクチンを接種していても、していなくても、
20歳になったら定期的に、必ず子宮頸がん検診を受けてください。



HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。



厚労省 HPV



HPVワクチンに関するよくあるご質問 (Q&A) については、こちらをご確認ください。

